

令和5年度第2回会津若松市廃棄物処理運営審議会 会議要旨

- 1 日時 令和5年11月7日(火) 14時00分～16時00分
- 2 場所 廃棄物対策課管理庁舎 2階大会議室
- 3 出席者 委員7名 (欠席3名)
事務局 市民部長、副部長、廃棄物対策課長、廃棄物対策課員2名

令和5年度第2回会津若松市廃棄物処理運営審議会

(次第)

- 1 開会
- 2 諮問
- 3 議事
 - (1) 一般廃棄物処理基本計画の追補(案)について
 - (2) 本市のごみ減量施策について
- 4 その他
- 5 閉会

1 開会(進行:事務局員)

2 諮問

- ・ 目黒副市長から平澤会長へ「プラスチック製品の分別収集に伴う一般廃棄物処理基本計画の追補(案)について」の諮問書を手交

(副市長退席)

3 議事(議長)

- ・ 配付資料の確認
- ・ 委員の半数以上が出席していることから、審議会条例第6条第2項に基づき、会議が成立していることを報告。(委員10名中7名出席)
- ・ 会議と会議録については、原則どおり公開とする。

(1) 一般廃棄物処理基本計画の追補(案)について(資料1、1-2～1-7)

- ・ 配付資料により、事務局(廃棄物対策課長)が説明を行い、質疑を行った。
- ・ 質疑応答の内容(欠席委員の意見は事務局が代理で説明)

【A委員】

1つ目、資料1-4「一般廃棄物処理基本計画【追補】(案)に係るパブリックコメント結果」の意見は、企業に関する意見となっているが、このような意見が出る背景としては、プラスチックに表示されるマークへの市民理解が低いことが考えられる。プラスチック製品・容器包装の回収を進めるにあたっては、マークに関する市民理解向上が重要となる。

2つ目、資料1-5「プラスチック製品の分別収集の概要について」の対象品目17番ビニールふろしき、16番ビニール袋は、プラスチック製容器包装にも該当している。プラスチック製品とプラスチック製容器包装は区別しにくく、どちらのものとして排出すべきか整理が必要。

【事務局】

1つ目、マークへの理解について。プラスチックのマークは素材などを表しており、この理解促進に向けて、将来的には、ごみ情報紙「へらすべえ」の特集記事で扱ってみたい。プラスチック製品については、原材料の表示が義務付けられておらず、外見からも分かりにくいところがあるため、市民への周知啓発が必要と考えている。

2つ目、ビニールふろしきがプラスチック製容器包装に該当するのではないかについて。商品の包装として用いられたビニールふろしきはプラスチック製容器包装に該当するが、市民が商品として購入したビニールふろしきを捨てる際にはプラスチック製品に該当する。いずれにしても、プラスチック製品とプラスチック製容器包装を同じ袋に入れて排出してもらう分け方・出し方を予定しており、厳密な区分を考えるとなく排出いただける。

【A委員】

同じ袋に入れて出していいのか。

【事務局】

はい。

会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センターでは、プラスチック製容器包装とプラスチック製品を同じ工程で処理し、容器包装リサイクル協会ルートで再資源化する予定であり、組成分析で容器包装と製品の割合を決めて、製品に係る再資源化費用を市町村が負担することとなる。

【A委員】

資料1-2「一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）【追補】（案）」、3ページの表8-1 家庭系ごみの分別収集の種別及び区分において、プラスチック製容器包装とプラスチック製品が別区分になっていたの、一緒に排出していいことが分からなかった。「プラスチック製容器包装及びプラスチック製品」という同じ区分にするなど工夫が必要ではないか。

【事務局】

表8-3 家庭系ごみの収集形態等において、プラスチック製容器包装とプラスチック製品を同じ分別収集とすることを記載している。

【B委員】

内容に異議がないが周知啓発について2点意見がある。

1つ目は、プラスチック製品の名称から硬質プラスチック製品を想像してしまった。対象とする品目に注目し、どういうものか分かる周知啓発を行って欲しい。

2つ目は、これらのプラスチック製品がどのように再資源化されるのかという背景の理解がないと、市民による分別収集が上手くいかないと思うので、周知して欲しい。

【事務局】

分かりにくいことが多いため、丁寧で分かりやすい説明を行っていききたい。

なお、本来、硬質・軟質の別なく全てのプラスチック製品の再資源化の努力義務が市町村に課されているが、今般対応するのは、現在の環境センターの中間処理施設で処理可能なものに限定した取組となっている。

【C委員】

1つ目は、プラスチック製品の分別収集開始に伴い、収集運搬や処理の経費が増加す

ることを懸念している。

2つ目は、どの程度の処理経費が発生するのか市民に知ってもらいたいと思う。

【事務局】

1つ目、経費について。プラスチック製品がどの程度排出されるかについては、生活系可燃ごみ組成（湿ベース推計値）では0.7%であり、あまり多くはないと予測している。収集運搬委託業者との現時点での協議では、プラスチック製容器包装の収集運搬経費の増加なしに対応できる見込である。処理経費については、環境センターから次年度の予算として示される予定である。

2つ目、収集運搬・処理処分経費の市民周知について。現在も毎年度のごみ処理経費をホームページで公表しており、分別区分ごとのごみ処理原価もお知らせしている。プラスチック製品収集開始後の経費についても公表していく考え。

【D委員】

パブリックコメントが1か月間で1件しかないがこういったものなのか。

【事務局】

市のパブリックコメントでは、意見なしもあり、残念ながら意見が少ないことが珍しいものではない。

総合計画など市民の関心が高いものであれば、もう少し件数が増えるものもある。

【D委員】

今後の進め方を教えてください。

【事務局】

追補案のとおり決定していかご意見を伺いたい。

ご承諾いただければ、11月14日に会長と副会長から市長へ答申書を手交いただきたい。

【一同】

異議なし。

【事務局】

それでは、後日、答申書を送付します。

(2) 本市のごみ減量施策について（資料2～資料5）

- 配付資料により、事務局（廃棄物対策課長）が説明を行った。
- 今回は、各委員の意見を引き出すことを目的に、会長による議事進行と事務局への質疑ではなく、ファシリテーターの進行により各委員の発表と委員同士での意見交換とすることを説明し、ファシリテーターに引継ぎ。
- 「意見交換の流れ」と「意見交換の心がけ」の説明。

※意見交換の心がけ

- ①相手の意見を最後まで聞く（さえぎらない）
- ②相手の意見を否定しない
- ③自由な発想で発言する（便乗OK）
- ④積極的に楽しむ

ア) 事務局説明「これまでの市の施策の評価」まとめ

- 新たに資料「これまでの本市のごみ減量施策の評価」を配付し、事務局が説明を行った。

イ) 意見交換「今後のごみ減量施策の方向性」について【その1 各委員からの発表】

- ・ 一人あたり持ち時間3分で意見を発表

【E委員】

5つの案を提案した。

- ① 拠点回収、回収場所の更なる拡充
- ② リサイクル品目の更なる追加
- ③ へらすべえで特集のあった、キエーロの推進
- ④ アプリの活用
- ⑤ 事業者へのごみ出し方の再確認。

提案資料の①と②については、現在の分別収集の充実方法として、ペットボトルなどの隔週回収から毎週回収への頻度増加などを記載した。

③と④のごみ削減に対して、これまでとは違う視点からアプローチをすることで、今まで興味関心を持っていただけじゃなかった方にもでごみ削減に参加してもらえると考えた。

提案資料にはないが、ごみ有料化については、市民や事業者の協力が無くてはごみを減らせないことを理解してもらい、目標を達成できなければ、将来ごみ有料化になることを先に伝えて、その上で色々なごみ減量の取り組みを行い、それでも目標の達成が難しい場合にごみ有料化にするのであれば、有料化も仕方ないと考えた。

こういったことなしに、先にごみ有料化だけを行うと、お金さえ払えばどんな捨て方でもよいと考えられてしまい、ごみの削減には繋がらない。ごみの削減を十分にやって、それでもごみにするしか仕方ない部分だけを、お金を払って捨てることになることで、本当のごみ削減に繋がると考えた。

【B委員】

資料では4つの案を提案したが1つ追加して5つの提案としたい。

- ① 生ごみの分別回収
- ② 剪定枝等の資源化
- ③ 雑がみの回収方法拡充
- ④ 衣類の回収方法拡充
- ⑤ 使用済てんぷら油の分別回収

①生ごみ。これまでの事務局の説明では、バケツやザルを使った回収方法を想定しているようだが、微生物により分解される「生分解性プラスチックごみ袋」を使った分別回収を行ってはどうか。課題としては、まだまだ生分解性プラスチックごみ袋の価格が高いことがある。先進事例を10数年前に見学。袋のまま堆肥化する事例が多いが、メタン発酵し発電。長野県安曇野市などで構成する穂高広域施設組合では、NEDOの実証試験で生分解性プラスチックでできた黄色の30ℓごみ袋に名前を書いて生ごみを出すという取組。週2回、回収し、メタン発酵ガスさせるもの。副生成物の消化液の農地還元は北海道や九州地方で盛んに行われている。

②剪定枝等。現在は燃やせるごみとして回収している剪定枝を資源として活用しようというもの。1つ目の方法としては、チップ化して舗装材とするウッドミックス舗装の原料として再資源化し、建設会社と連携して、公共施設を中心にウッドミックス舗装を行ってはどうか。秩父市の事例を視察した際には、足に負担のかからない舗装となっていた。2つ目の活用方法としては、水はけの悪い土地の暗渠排水材として剪定枝を活用する方法。工事では、砕石と暗渠排水管を用いるが、剪定枝は暗渠排水管の代用品とな

る。3つ目の活用方法は、バイオマス発電施設の燃料チップとして活用してはどうか。

③雑がみ。市は雑がみ専用保管袋を配布しているが、必要なのは排出するための袋であり、これを配付してはどうか。

【F委員】

ゼロカーボンシティの考え方の定着や廃棄物を極力排出しないといったことを定着させることを基本的な考えとした。

例としては、会議などで「あなたの今日のごみ減量の目標」を伝えて、配布した資料のリサイクルを始める取組が必要。

広報活動では、子どもが学校から持って帰る通知や、企業から従業員への通知、福祉サービス施設から高齢者へのお知らせなど、聞いてくれるチャンネルで伝えてはどうか。

また、現在減少傾向にある資源物集団回収については、各種行事で利用するバス運行費用の補助などメリットのあるものをインセンティブとしてはどうか。

分別収集では、雑がみ、古着、白色トレイなど、現在は専用の回収容器がないものを、回収容器を集積所に置くことで、市民の認知を高めてはどうか。

ごみの有料化については、すべての容量のごみ袋を有料化する案だけでなく、ごみ袋のうち最大の45ℓだけを有料化することで、排出量を抑える案も併記。

また、燃やせるごみに、プラスチック製容器包装や雑がみが含まれている場合に、回収せずに置いておくという厳しい対応も提案する。

【G委員】

市民にごみの分別方法がまだまだ浸透していないことや、事業者も資源物のリサイクルを意識せず許可業者に任せているとの受け止めがある。そのため、事業所へのアンケート実施を提案する。

今後のごみ減量施策の方向性としては、ごみ有料化により、市民が分別しないと負担となるような仕組みづくりとすることで、ごみの分別・減量を促してはどうか。

【A委員】

①ごみ減量への意識醸成。ごみ問題に対して関心が高いのに浸透していない。ミニサロンを提案したのは、行政が説明するのではなく、ごみを出す側となる市民からごみ減量サポーターのようなものを募って、その方を中心としてどうやったらごみが減るかを市民同士が話し合っ、広げていくことが重要と考えている。SDGsの17のゴールの一つにあるように、環境団体や町内会との連携・パートナーシップも重要。カレンダーは分かりやすいが、ごみの分け方・出し方のページが後ろの方にあって見つけにくいので、最初のページに持ってくるなどして、日頃、目につきやすくすることが良い。

②生ごみの減量化。生ごみの堆肥化などリサイクルが大切。バケツでの運搬や遠いところへの排出など難しい面もあるが、身近なところでやらないと成功しないのではない。また、生ごみのリサイクルルートは複数確保しておかないと、堆肥化施設は止まってしまうことがある。受入れしてもらえない状況になった際など、大変なことになる。

③ごみ有料化。税の公平な負担から考えれば大切で必要なことだと思うが、いくら税金を使っているかは浸透していない。一方で、今でも店舗への家庭ごみの持込に頭を悩

ませており、ごみ有料化した場合には、不法投棄や店舗への家庭ごみの持ち込みも更に増えるので、事業者との連携も重要となる。

【H委員】

ごみ出しをする市民の立場としては、毎日、家の中をきれいにしようと思って、ごみ出しをしている。

ごみの分け方・出し方は、半分くらいしか分かっていないところもあって、たまに町内会役員から分け方・出し方を教えてもらうこともある。高齢になると面倒くささが先になってしまう。分け方・出し方を守りたいし、守らなければならないと思っているが、どこまで守ればいいのかの程度感も分かりにくい。

ある程度の人数が集まるとごみの分け方・出し方が話題になるが、その中に、ごみの分け方・出し方をしっかり理解している人がいない場合には、分からないまま終わってしまうこともある。

ごみの有料化は、市民の気持ちをしゃきっとさせる1つの主要な方法だと思う。

忙しい方にごみの分け方・出し方を教えに来てくれというのはおこがましいと思っている。公民館などでごみの分け方・出し方の説明会が行われることがあるが、高齢者にとっては公民館に行くことが難しい。出席した町内会役員が町内に戻って教えてくれることもあるが、役員で止まってしまうこともある。

【I委員】

分別が一番大事。皆が分け方・出し方を分かる、又は、誰か分かっている人が教えてくれることが大切。

また、この審議会に子育て世代の若い力が必要と思う。

提案書にはないが、自宅の生ごみは堆肥化しており、生ごみの自家処理が広がればいいと思う。

【D委員】

これまでの市の取組は色々な提案がなされていて素晴らしいと思うが、問題は、どう実行していくか、どう検証していくかが重要。一方で、全国との比較では、県がワースト2位、市がワースト9位という結果であり、どんな良い提案をしても、結果が出せておらず、合格点に達しているとは言えない。

ごみ減量化の課題として、生ごみと食品ロスが課題と考えている。

今朝の通勤途中のごみステーションでは、燃やせるごみが折りたたみ式のカゴに入りきらず、脇に、乾いていない生木の剪定枝が置いてあった。剪定枝については、分別収集してチップへと資源化している事例があり、こういった取組をしないとごみステーションの規模が倍必要と感じた。

先進事例も大切だが、E委員の提案にもあった上勝町では、ごみ問題とは別に葉っぱビジネスでも有名で、高齢者が葉っぱビジネスで高い収入を得ている。これをマネしている自治体があるかという、これに続く地域が出ていない。良いアイデアがあっても続く自治体が出てこないというのは、結局は、やる気の問題とリーダー不在、盛り上げる人がいない、前に進める人がいないということ。

ごみ減量の良いアイデアが出てどう進めるかが重要で、そのためには仮説を立てて、実行して、検証していくことが必要。町全体で検証することが難しいことが課題。

市民の啓発も重要。

【C委員】

現在、審議会でごみ減量施策を審議している理由は、令和8年3月までに燃やせるごみの排出目標を達成しないと、新ごみ焼却施設で処理しきれないためであり、緊急事態だと思っている。

ごみを減らさざるを得ない状況に追い込まれており、出来るだけ早くごみを減らすためには、ごみ有料化をするかどうかという話ではなく、ごみ有料化はしなくてはならない。そのために、どのようにごみ有料化していくのかを、皆で考える段階に入っている。

その時の進め方として、市がごみ有料化の内容を説明するだけだと市民の反発を招きかねないので、皆で作る、皆でどうやってごみの有料化していくかをボトムアップで考えていくのが一番良いと思う。インターネットなどを活用して、市民の色々な意見を集めて、座談会のような場で話し合い、どんな意見が出ているかをSNSなどで発信できる。また、小学校や高校の総合学習や授業の時間で取り上げてもらうことで、市全体で機運を高めていくことも有効。押し付けるのではなく、ごみ有料化を皆が自分事とし、どう進めていくのかを考えることが大切と考える。

【J委員】

C委員と同じ意見を持っている。

令和8年3月稼働の新ごみ焼却施設の燃やせるごみの処理能力を超えて処理できなくなったら衛生上の問題が生じるため、これを回避するためには、それまでに燃やせるごみを減らすことが必要であり、そのための1つとして、ごみの有料化という施策が必要になると考えている。

もちろん、有料化だけで全てが上手くいくとは考えておらず、有料化とともに、これまで市が進めてきた雑がみ分別徹底などの廃棄物の再資源化などを同時並行して進めていかねばならない。これらの小さな努力をやっていくことで、ようやく燃やせるごみの減量にたどり着くと考えている。

国「一般廃棄物処理有料化の手引き」を参考とすると、低廉な手数料水準ではごみ減量効果が薄まってしまうので、ある程度の手数料水準で検討していくことになり、そうなると市民の反発も生じる。C委員の提案にあるように、ボトムアップでごみ有料化を考えて進めていければ、本当に良いものになると共感した。

ウ) 意見交換「今後のごみ減量施策の方向性」について【その2 事務局説明】

- 新たに資料「今後のごみ減量施策の方向性」を配付し、事務局が説明を行った。

エ) 意見交換「今後のごみ減量施策の方向性」について【その3 意見交換】

- これまでの意見を聞いて、良いなと思った点、疑問に思った点、詳しく知りたい点、新たに思いついたことなど、意見交換を行った。

【D委員】

市民のごみ分別・減量意識を高めていくことや、ボトムアップで進めていくという意見から、本審議会に市民公募として、自ら委員になっていただいた二人については、意識が高く、様々調べており、市民代表としてふさわしいと感じている。

二人がなぜそのように至ったのか教えて欲しい。

【市民公募委員1】

ごみステーションのすぐ隣に住んでおり、ごみステーションの分別ができていない酷い状況を見て関心が高くなっており、応募させてもらった。

【市民公募委員 2】

結婚して子どもがいる。男女平等の時代ではあるが、まだまだごみ出しは女性の仕事になっている。ごみを減らすことは女性の手間や負担を減らすことに繋がる。

また、ごみを減らすことで、何のとりえもない自分でも、地球のため、子どもたちのために出来ることがあることで、ごみに興味を持つようになった。

【D委員】

全市民の家の隣にごみステーションを置くと意識が高まるというのは冗談としても、ごみを自分事として意識してもらうことが大切と感じた。

【C委員】

市民公募委員 2 は、ごみ出しで忙しいからごみに関心を持ったということだが、世間では忙しいからごみのことなんか構ってられないというのが一般的。どうやったら、忙しい市民にも、市民公募委員 2 のように、ごみに関心を持ってもらえるのか意見はありませんか。

【市民公募委員 2】

これから、子どもたちが大きくなって、また子どもも持っていく中、地球の環境が良ければ気持ちよく過ごせる。

ごみの分別と減量は、立場に関係なく誰もが出来る、資格も、取り柄もなくとも、地球のために出来ること。そういうことなら私にも出来る。温暖化などの問題がない地球に、子どもたちが少しでも長く住んで生きていてもらいたい。人間だけでなく、動物も植物にも良い地球になってほしい。小さなことの繰り返しを実を結ぶので、小さなことだとばかりにしてやらないと結果がでない。

【C委員】

先ほどの質問の意図は、ボトムアップで進めるために座談会を開いてはどうかと提案したものの、座談会に一体だれが来てくれるのだろうかと考えた。また、ごみ有料化をやることになった自治体では説明会が開催されるが、説明会に誰が来てくれるのだろうか。

そのために市民を動員することでは、市民が不満を募らせるだけ。どうやったら皆で考えることができるのかのヒントになるかと思った。

【A委員】

ごみ問題が逼迫しているから有料化が必要との意見も分かるが、ごみ有料化を行う前提で座談会しても紛糾すると思う。

ごみが減らなくて困っているから皆さん知恵を出してくださいというところからはじまる座談会としてはどうか。アンケート結果から、ごみに対する意識は持っていると思う。沢山参加してくれるか分からないが、町内会単位とかで、市民が自分たちで考えるところからはじめるべき。

こういったステップなしにごみ有料化を行ったら、私の周りでも、ごみ有料化をしたいならすれば良い、そうなったらスーパーに家庭ごみを持っていくという人もおり、ごみは減らず、不法投棄や店舗への家庭ごみ持込が増えてしまうのではないか。

ごみ有料化を成功させるためにも、もう一度みんなでごみ減量を考える、女性の意見を集める、座談会を行うことが大切。

その際、動員などで参加者を集めるのではなく、参加したくなるインセンティブや、ごみを減らすことでごみ出しが楽になるとか、楽しくみんなで考えるやり方が必要。

時間はかかるが、市民の意識醸成に繋がって、最終的には、ごみの減量に繋がり、ごみの不適切排出がない、ごみ有料化になると思う。

【H委員】

ごみステーションが散らかっていれば片付け、掃除し、草むしりすることがあるが、若い人は、手伝うこともなく、関心も持ってくれない。若い世代には、60代以降の高齢者の声が届きにくいと感じているが、高齢者になっても、自身ができることをやろうと思っている。

【D委員】

アンケート結果では、ごみの分別と減量へ関心を持っていることが伺えるが、11万市民が納得するごみ減量施策を考えなければならない。関心をもっているが、何かが伝わらない。

京都市では、20年間でごみの量を半減させた。経営学では5%、10%を削減することは難しいが、大幅なリストラクチャリングで半減させる方が楽という考えもある。京都はどうやったのか。

【J委員】

目標が明確ではない。今回、やらねばならないのは、燃やせるごみの減量。燃やせるごみをどう減量化するか。有料化ありきではないとしても、最終的に有料化があるとしたら、並行して他の減量化する方法も進めなければ、高い負担となり反発を招いてしまう。減量化する方法どのように考えていくかを市が考えなければならない。まずは、全体のごみの減量化というより燃やせるごみを減らす方法に主眼をおいて考えていくべき。

【A委員】

燃やせるごみ減量化のために、まず、紙ごみを減らそうということでは、市内スーパーマーケットで、ポイントがもらえる手法で古紙の店頭回収が行われており、取組が広まっている。雑がみや段ボールが集まっている。こういった取組が広がる必要がある。店舗側の負担としては、回収は業者がしてくれるが、スペース確保と計量法に基づく検査費用に係るなど課題がある。インセンティブがあれば、市民は行動する。

例えば、公民館で古紙を回収し、會津コインを付与するようなインセンティブを与えてはどうか。古着も回収拠点が少ない、食品スーパーなど有人の場所で集めてインセンティブを付与してはどうか。

インセンティブを活用することで、古紙や古着を回収し、燃やせるごみを減らす取組を楽しく広めてはどうか。

【D委員】

昔住んでいた場所で、屑屋が古紙や金属を集めて回っていたが、市内にはあったか。

【A委員】

あったと思う。今でも古紙回収を行っている事業者はいる。交換レートが悪いので、スーパーマーケットのポイント付与を選ぶ方が多い。

日常的に、資源ごみが溜まったら出せる拠点を増やしていくことが大切。

【C委員】

市のごみ減量施策の検証ができているのか。アンケートを取ってはいるが、色々な施策をやっても、最終的なごみの量でしか結果の検証をできていない。

例えば、ごみ情報紙「へらすべえ」発行によりどの程度のごみの量が減ったのかは把握されていない。どうやったら「へらすべえ」の効果が計れるのか。例えば、SNSで発信して、どの程度、閲覧されるのか、シェアされるのかといったデータがあれば、検証につながる。「へらすべえ」は立派で良いと思うが、一度発行して終わりになっていないか。SNSは頻度が大切なので、一度に全部発信するのではなく、昔の情報を含め

て、細かく、繰り返し発信して、閲覧される頻度を高めていくことが良い。また、「へらすべえ」を皆で読む会を行って、これを座談会とするのも良いと思う。

【D委員】

仮説と検証の場として座談会を一回やってみるのが良い。毎回完璧を目指すのではなく、仮説と検証を繰り返してはどうか。

【D委員】

グラフィックレコーディングは市役所に掲示したりするのか。

【事務局】

市役所が仮庁舎で貼りだす場所もあまりないため、委員の皆さんが良ければ、まずはホームページに掲載したい。

オ) 本日のまとめ

- グラフィックレコーダーから、グラフィックレコーディング結果（別添）を説明。
- ファシリテーターがまとめ、拍手で終了。

4 その他

- 特になし

5 閉会（事務局）